

富士市富士山火山防災マップ

この図は仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流・噴石・火碎流などの影響が及ぶと考えられる範囲を全て重ね描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。

富士山が噴火しそうなときには、公的機関からの情報に注意し、万が一に備えて、避難の準備をする等、適切に行動しましょう。

気象庁が発表する火山情報

緊急火山情報

生命、身体に関わる火山活動が発生した場合、あるいはその恐れがある場合に隨時発表されます。市町村の指示に従い速やかに避難範囲からの避難が必要です。

臨時火山情報

火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随时発表されます。登山は自粛もしくは中止する必要があります。また噴火の可能性が高まったとされる情報が発表された場合は観光の取りやめや一部の方は避難が必要となります。

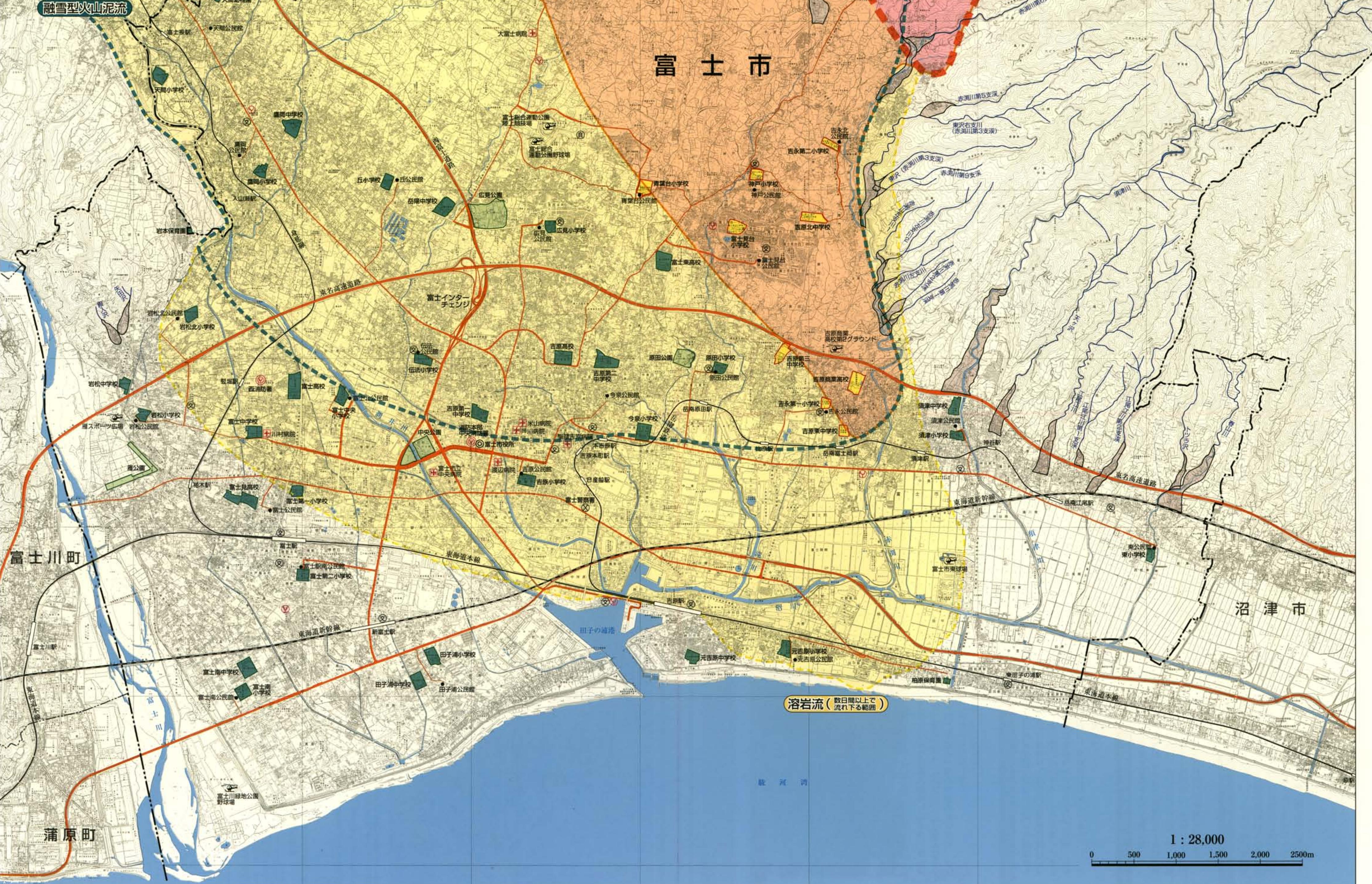
火山観測情報

火山活動に変化があった場合、あるいは緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合などに発表されます。特段の対応は要りませんが、火山活動の状況を理解し、その後に発表される火山情報に注意する必要があります。

凡 例

- 火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。
(噴火した場合に、下の2つのかどちらに当たれば、すぐに危険になる範囲です。)
- 火碎流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から飛出した石がたくさん落ちてくる範囲(この範囲外にも、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲
(溶岩が流れかけた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。)
- すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。
(溶岩が流れかけ、数日間以上で流れる範囲を示しています。)
- 雷が轟き立てる時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要がある範囲です。
(轟立った雷が火碎流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)
- 火山灰が厚く落ちている場合には、大雨警報が出た時、避難する必要がある範囲を示しています。火山灰が飛く(10cm以上)積もっている場所では少しの雨でも土石流が発生しやすくなりますので注意しましょう。(土石流災害危険渓流および土石流危険区域調査要領(案)に基づいて、抽出した流域及び氾濫範囲を示しています。)
- 火山噴火の時に使える避難施設
地震や火災の時に使えるが火山噴火の時には溶岩流の到達範囲にあり、使えない可能性のある避難施設
- 広域避難地
- 市役所
- 地区防災拠点(公民館)
- ◎ 自衛隊集合地
- 緊急輸送路
- ◎ 消防署・分署
- ◎ 警察署・交番・駐在所
- 救護病院
- ヘリポート

融雪型火山泥流



富士市富士山火山防災マップ



富士山火山防災マップを作成した目的

◆ 富士山は、今から約300年前に噴火した後、現在まで静かな状態が続いている。しかし、地下深くでは今もマグマが活動を続けている活火山です。
そのため万が一噴火しそうになったり噴火が始まったらしたいために、皆さんがみすから安全を確保するためにどうなうな情報を学び、どのような行動をすればよいかを知つていただくために、この防災マップを作成しました。

◆ なお、富士山すぐには噴火が起こるような状況は、「現時点（平成16年）においてありません」。

◆ このマップは一定の条件に基づいて推定された影響範囲で被害の程度を表したものであり、実際に噴火した場合はこのマップに示された内容と異なる部分が出てくる場合もあります。

◆ 富士山では過去さまざまな規模や種類の噴火が起きており、噴火の場所も山頂だけに限らず、山腹にも数多くの火口が分布しています。このような富士山の噴火の特徴をこのマップから学び、どのような現象がどこまでやってくるのかを、十分理解した上で、どの防災行動がかかるよう心がけてください。

防災避難の連絡先
富士山からの水蒸気や火山灰の噴出、地鳴り・鳴動などの異常現象が見つかったら、すぐ下記に連絡してください。

富士市役所防災対策課 TEL: 0545-55-2715
富士市消防本部情報指令課 TEL: 0545-55-2857
富士警察署 TEL: 0545-51-0110

本ハザードマップに関する問い合わせ先
富士市役所防災対策課 TEL: 0545-55-2715 FAX: 0545-51-2040 Eメール: bousai@city.fuji.shizuoka.jp

企画・発行: 富士市
製: (株)中央ジオマテックス
資料 提供: 富士山火山ハザードマップ検討委員会

富士山は活火山です

富士山は、日本一高くそして美しい山が象徴する山です。私たち富士市民は日々富士山のさまざまな恩恵を受けられていますが、富士山が実は活火山であるということをご存じでしょうか。

日本一の高さ、未だありの美しい姿は富士山が過去に何度も噴火し、溶岩などの火山噴出物が幾重にもたい積してつくられたものなのです。

日本の活火山分布

気象庁・火山噴火予知連絡会は、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴火活動がある火山を活火山と定義し、現在、北方領土を含め、国内で108の活火山を選定しています。また、活火山は過去100年間に収集された詳細な観測データに基づき100年活動度指数、及び過去1万年間の地層に残るような規模の大さい噴火履歴に基づく1万年活動度指数を定義して、ランクAからCまでの3つのランクに分類されています。

富士山はこの108の活火山の一つであり、過去の火山活動による活火山の分類ではBにランクされています。



万が一に備えて・・・

噴火しそうな時、噴火が始まった時には

気象庁が発表する火山情報を注意しよう。
テマやうわさに惑わされないようにしましょう。
テレビやラジオのニュース、市防災無線などを聞いて正しい情報を得ましょう。
避難勧告などの指示がある場合には従いましょう。

避難する場合は、以下に注意しましょう

忘れていませんか？

- 1人暮らし、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 貴重品は忘れずお持ちましょう。
- 3枚持出し品を確認しましょう。
- 4外出中の家族のために、避難先を書いてメモを残しましょう。

避難する場合は・・・

- 1市役所や消防署、消防団などの指示に従い、落ちついで行動しましょう。
- 2お年寄りや赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
- 3小石が降ってくることがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。
- 4市内には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

避難場所では・・・

- 1人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2お互いに助け合いましょう。
- 3ラジオやテレビ、市防災無線などの情報に注意しましょう。

離れた場所にいる家族に安否を知らせるには

災害用伝言ダイヤル
「災害用伝言ダイヤル」は、大規模な災害が発生した時に被災地域内やその他の地域の方々との間で「声の伝言板」の役割を果たすシステムです。「171」をダイヤル後、ガイダンスに従ってご利用下さい。

利用方法
録音の場合 171→[NTTガイダンス]→[NTTガイダンス]→(市外局番)被災者の電話番号→録音
再生の場合 171→[NTTガイダンス]→2[NTTガイダンス]→(市外局番)被災者の電話番号→再生

災害用伝言板(携帯電話「iモード」)
「災害用伝言板」は、携帯電話を所有している人が被災地にいる場合に、携帯電話(「iモード」端末)から伝言板に自分の安否情報を登録し、離れた場所にいる家族や友人など、携帯電話番号を知っている人が携帯電話やインターネットを通じて安否情報を確認できるシステムです。

災害の発生可能性マップ

この地図の作成に当たっては、国土地理院の測量を基に、測定飛行の20万分の1地勢図及び測量地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（測定番号 平1780号、第750号）

火山灰の予測到達範囲と降灰深

季節によって風向が変わると、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いています。

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向が変わると、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いています。

放灰がないようにするためスコアゴーグルを着用して下さい。
● 富士山の近くでは火山灰だけではなく小石が降ってくることがありますので、やむを得ず外出する時はヘルメットや防災マスクを着用して下さい。

● 雨が降ると、軽石とともに雨が吹き上げられることがありますので、雨衣を着用して下さい。
● 高速道路では噴煙30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたまま建物が壊れたことがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。

● 雨が降ると、軽石を吹き上げる場合があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

宝永噴火(1707)時の実績の降灰分布

宝永噴火(1707)時の実績の降灰分布を示す図です。

どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

溶岩流(ようがんりゅう)

今から約70~20万年前に、現在の富士山よりやや北側に小御岳火山と呼ばれる火山が誕生しました。その山体の一部は、富士吉田市合川合の小御岳神社付近で今も見ることができます。

古富士火山時代

約10万年前になると、古富士火山が噴火を開始しました。古富士火山は、なればなりの小さく深い武岩質の溶岩を流しました。一方で、この山体は、山頂付近で4回の山崩れを発生させました。

新富士火山時代

約1万年前になると、古富士火山は覆うようにして新富士火山(現在の富士山)が成長を開始しました。新富士火山は、なればなりの小さな武岩質の溶岩を流しました。一方で、この山体は、山頂付近で4回の山崩れを発生させました。

火砕流(かさいりゅう)

高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め近くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができます。

(写真提供: 白尾元記)

火碎流(かさいりゅう)

山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10センチメートル以上積む地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。(写真提供: ナガサキ・フォト・サービス)

火碎流(かさいりゅう)

高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れり、巻き込まれると死する場合があります。自動車より速く流れるので、早めに避難する必要があります。(写真提供: ナガサキ・フォト・サービス)

降灰(こうはい)

細かく碎けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。火口の近くでは厚く積もり、遠くにゆくにつれて徐々に薄くなります。外出を控え車の運転には注意しましょう。(写真提供: アジア航測)

溶雪型火山泥流(りょうせきがたひざんないりゅう)

川の上流に火山灰がたくさん積もると、下流に流れてきて川底にたまるので、洪水が起きやすくなることがあります。川沿いでは注意が必要です。

波打らん(はうちからん)

川の一部が崩れ大きなたまりとなって雪崩のように高速で流れでます。約2500年前に富士山東側の御殿場方面に崩れたことや、さらに昔にも複数回あった可能性があります。広域に被災が及ぶので、危険性が高まつた場合には、早めの避難が必要です。

空振(くうしん)

空振は、噴火に伴う空気の振動が伝わる現象です。噴火があれば、山麓周辺では、時折強い空振を感じる可能性もあり、連続的に窓ガラスなどが振動したり場合によって割れることもありますので注意しましょう。

水蒸気爆発(すいじょうきばくはつ)

溶岩流が湿地帯や湖に流入すると、小規模な水蒸気爆発が起こることがあります。この場合、爆発の発生場所近くでは噴石や爆風の危険があるので注意が必要です。

雪泥(ゆきのこ)

雪代(ゆきしろ)ともいいます。中世や江戸時代には雪の村を襲った大規模な雪代があったことが古文書に書かれています。噴火が起きない場合にも、初冬や春の降雪時には雪と雨がまとまつたなだれが起こりやすいので注意が必要です。

火山性地震(かざんせいじしん)

火山が噴火する前や噴火中に大きな地震が起こることがあります。場所によって震度5から6弱程度の強いゆれがあります。もし登山中に強いゆれを感じたら、落石のおそれがあるので、斜面の上の方に注意し、大きな岩のかけなどに身を寄せ下さい。

火山ガス(かざんがす)

火山ガスはマグマに溶け込んでいるガス成分が気体となって噴き出すもので、二酸化炭素などの有毒な成分を含むことがあります。火口などのガスが出てる場所には近づかないなどの警戒が必要です。